

ブラジル・ルラ元大統領収監で大統領選の行方は一段と不透明に

～有力候補の不在で見通しは立ちにくくなり、リアル相場も正念場が続く～

発表日：2018年4月9日(月)

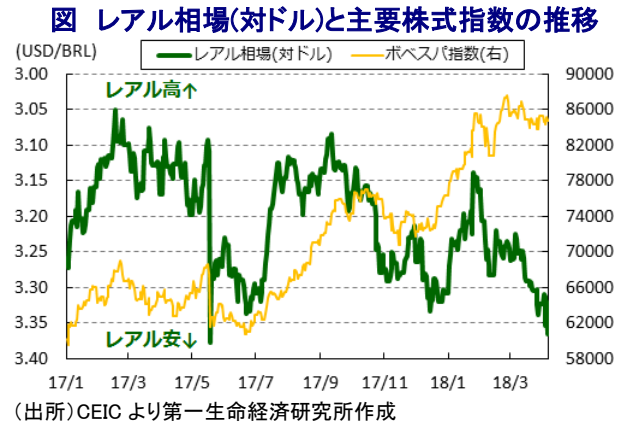
第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

(要旨)

- ブラジルでは今年10月に次期大統領選が予定されるが、この行方は一段と不透明になっている。世論調査でトップを走るルラ元大統領は、在任中の汚職事件に関連して一審、二審で有罪判決を受けた。ルラ氏は収監見送り請求を行うも、最高裁はこれを却下し、最終的に収監された。ルラ氏の出馬可能性は依然残るが、有力候補の「退場」で次期大統領選の行方は混沌としており、リアル相場にとっても正念場が続くと予想される。
- ブラジルでは今年10月に次期大統領選が予定されているが、この行方は一段と不透明になっている。次期大統領選を巡っては、2003年から2010年まで大統領を務めたルラ元大統領が一貫して各種世論調査で首位を走る状況が続くが、在任中の汚職事件に関連して検察当局から訴追され、大統領選への出馬の可否は不透明な状況が続いてきた。こうしたなか、昨年7月には禁錮9年半の有罪とする一審判決が下されたものの、ルラ元大統領はこの判決内容を不服として控訴したが、今年1月に控訴裁判所は3人の判事が全会一致でルラ元大統領の有罪を支持した上で、量刑を禁錮12年1ヶ月とする一審より厳しい判断を下した（詳細は1月25日付レポート「[ブラジル・ルラ元大統領は二審も有罪](#)」をご参照下さい）。同国の法律（フィシャ・リンパ法）では、有罪判決が下った場合に8年間に亘る被選挙権の剥奪が規定されているほか、二審の有罪判決が確定すれば収監されるため、10月の次期大統領選には事実上出馬出来ない。こうしたことから、ルラ大統領は二審判決後に最高裁判所に対して控訴するとともに、収監阻止に向けた人身保護請求のを行った。しかし、今月4日に最高裁はルラ元大統領による収監見送り請求を棄却するとともに、収監のために現地時間の6日午後5時を期限に警察に出頭するよう命じる判決を下した。ルラ元大統領は最高裁の判断を不服として、これを無視する形でサンパウロ州にある出身母体の労働組合本部ビルに籠城し、出頭命令を無視する姿勢をみせた。その際、労働組合本部ビルの周辺には大勢の支持者が集まり、あらためてルラ元大統領の人気の高さがうかがわせる動きもみられたが、出頭期限から丸1日過ぎた7日午後、ルラ元大統領はビルの周囲に集まった支持者に対して「真実と自身の無罪を証明するため出頭命令に従う」との演説を行い、警察に出頭した。その後は同国南部のクリチバにある警察施設にヘリコプターで移送され、10月の次期大統領選での返り咲きを目指すことは極めて絶望的になった。なお、フィシャ・リンパ法では、連邦司法高等裁ないし最高裁に対して「立候補不適格者」とされた資格の停止を求める仮処分申請を行うことが可能であり、仮にこれが認められれば大統領選への立候補自体は可能となる。また、ルラ元大統領が二審判決を無視して選挙裁判所に立候補書類を提出した場合、検察当局は出馬差し止めを請求することが予想される一方、その場合も高等選挙裁判所での審理中は支持者などを通じて選挙活動が可能な状況は事実上続く。過去にはこうした例外的措置が認められたこともあり、ルラ元大統領が次期大統領選に出馬する可能性は極めて低いものの残されている。なお、直近の世論調査においてもルラ元大統領は低所得者層を中心とする厚い支持を背景に2位以下の候補に大差を付ける形で首位に立っているが、今回の収監により行方は分からなくなった。また、ルラ元大統領に次ぐ支持を集めているのは、元軍人の強硬な右派として知られ、その過激な発言から最近「ブラジルのトランプ」の異名を採るボウソナロ下院議員であるが、実際にはすべての候補者が出揃っている訳ではなく、今後の行方は混沌とする可能性が高まっ

ている。現テメル政権を巡っては、国民からの支持率は一桁台の「低空飛行」が続く一方、その構造改革路線に対して国際金融市場は一定の評価をしており、次期大統領選後も政策姿勢が継続されるか否かに注目が集まっている。こうしたなか、政権の経済政策の舵取りを務めてきたメイレス財務相（元中銀総裁）が6日、次期大統領選への出馬の意向を表明して財務相を辞任した。中道右派政党の与党ブラジル民主運動党（MDB）からは現職のテメル大統領も次期大統領選への望みを捨てていないとみられ、近く候補者調整が行われる見通しである。また、現連立政権の一翼を担うブラジル社会民主党（PSDB）からはアウキミン党首（前サンパウロ州知事）が次期大統領選に出馬することが決定した。その他には、中道左派政党の民主労働党（PD T）からはゴメス元財務相が出馬を表明しているが、バラ撒き政策による左派色が極めて強い姿勢を打ち出すなど金融市場からの評価は厳しい。このように、次期大統領選においてもこれまで同様に候補者の乱立が予想される一方、有力候補者であるルラ元大統領の去就が不透明になったことは、その行方を一段と見えにくくさせている。こうしたことを勘案すれば、先行きも通貨レアル相場はしばらく不安定な状況が続くことは避けられないと見込まれる。



以 上